ドメイン、サービスエリア、ユーザ権限、サービス テンプレートの管理

この項の内容は次のとおりです。

- ドメイン、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートの概要 （1 ページ）
- ドメインの追加 （2 ページ）
- サービス エリア （4 ページ）
- サービス エリアの追加 （5 ページ）
- ユーザ権限の追加 （11 ページ）
- サービス テンプレートの作成 （21 ページ）

ドメイン、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートの概要

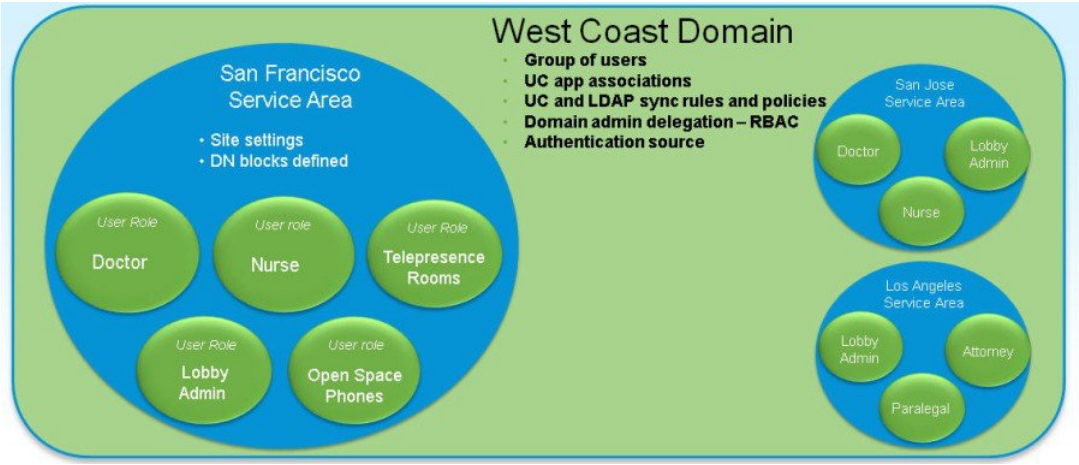
デバイスを追加した後は、最初にドメインを作成してから、サービスエリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートを追加する必要があります。

ユーザ プロビジョニングをセットアップするには、以下の操作を実行します。

1. ドメインの追加および設定：ドメインを追加して設定し、ユーザ グループの運用上の機能を定義します。
2. サービス エリアの追加および設定：サービス エリアを設定します。具体的には、ルート パーティションとデバイス プールの選択、サービス エリアにアクセスできるユーザ タイプの指定、電話番号ブロックの設定を行います。
3. ユーザ ロールの追加および設定：ユーザ ロールを追加し、特定タイプのユーザ ロールによってプロビジョニングできるサービスを割り当てます。
4. サービス テンプレートの追加および設定：プロビジョニング属性を設定します。プロビジョニング属性はサービスの起動時にサービスに適用される各種設定です。

Prime Collaboration Provisioning 10.0 以降のバージョンでは、[ユーザプロビジョニングのセットアップ（User Provisioning Setup）] ページ（[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）] を選択）に、すべてのユーザ プロビジョニング タスクの設定の要約が示されます。一元化されたビューを使用して、1 つのユーザ インターフェースでドメイン、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートを管理することができます。

図 *1:* ドメイン、サービス エリアとユーザ ロール



導入は、地理的なロケーションに基づいて行うことができます。上記の例では、音声の導入が西海岸地域の都市で予定されています。西海岸はドメインに該当します。ドメイン同期ルール、ポリシー、管理権限が西海岸ドメインで定義されます。サンノゼ、ロサンゼルス、サンフランシスコは、サービス エリアです。これらの都市の Doctor（医師）、Nurse（看護師）、Lobby assistant（ロビー アシスタント）のユーザ ロールには、IP テレフォニーとメッセージング サービスをプロビジョニングする必要があります。これらの IP テレフォニーとメッセージング サービスは、サービス テンプレートで定義されます。Doctor と Nurse ユーザ ロールは、国際電話の使用を許可するサービス テンプレートによって割り当てられます。一方、Lobby ユーザ ロール用に定義されたサービス テンプレートでは、市内通話だけが許可されます。

ユーザ インターフェイス（[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）]）では、左側のペインにドメイン、サービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートが一覧表示されます。右側のペインには対応するテーブルが表示されます。[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）] ページに入力すると、デフォルトで [ドメイン（Domains）] テーブルが表示されます。すべてのドメインのリストを表示するには、[すべてのドメイン（All Domains）] をクリックします。展開するには矢印アイコンをクリックします。ドメインを展開すると、そのドメインのサービス エリア、ユーザ ロール、サービス テンプレートを表示できます。さらに、サービス エリアとユーザ ロールを展開すると、複数のユーザ ロールと、そのドメインに関連付けられているサービス エリアのリストを表示できます。

ドメインの追加

ドメインとは、ユーザのグループです。グループごとにシステム ユーザを 1 名以上任命し、そのユーザにドメイン内のユーザに対するサービスの管理を任せることができます。また、ドメ

インにはルールまたはポリシーを設定できます。これらのルールとポリシーは、そのドメイン内のユーザのサービスに適用されます。ドメイン内の運用に共通のポリシーを適用することも可能です。

1 人のユーザが複数のドメインを管理できます（そのユーザに適切な承認権限が割り当てられている場合）。ユーザのすべてのサービスは、そのユーザを追加するときに指定したサービス エリアでプロビジョニングされます（ユーザを追加するには、[ユーザプロビジョニング（User Provisioning）] を選択します）。

ドメインを作成した後、新しいドメインにアクセスできるサービスエリアとユーザ権限を追加できます。サービス テンプレートを作成し、サービス エリアとユーザ権限に割り当てることもできます。また、1 つのサービステンプレートを、サービスエリアとユーザ権限の複数の組み合わせに関連付けることも可能です。

ドメインを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）]**を選択します。

ステップ 2 [追加（Add）] をクリックし、[ドメイン（Domains）] ページで新しいドメインを追加します。

ステップ 3 [コールプロセッサ（Call Processors）]、[メッセージプロセッサ（Message Processors）]、[同期ルール（Synchronization Rules）]、[LDAP設定（LDAP Settings）] などの必要なフィールドに入力し、[保存（Save）] をクリックします。[名前（Name）] フィールドにドメイン名を入力する必要があります。使用できる文字は、スペース、英数字（A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9）、および特殊文字 _ - . / : ; = ? @ ^ ‘ { } [ ] | ~ です。

[同期ルール（Synchronization Rules）] ペインで、ドメイン同期ルールを設定できます。Cisco Unified Communications Manager および Unity Connection の [同期ルール（Synchronization Rules）] を選択します。特定の同期ルールの詳細については、[?] アイコンをポイントします。

- ドメインの設定後、ドメインの同期を実行します。

既存のドメインを編集するには、左ペインでドメインのリストを展開し、編集するドメインをクリックします。また、[すべてのドメイン（All Domains）] をクリックし、テーブルからドメインを選択して [編集（Edit）] をクリックする方法もあります。

関連トピック

サービス エリアの追加 （5 ページ）
ユーザ権限の追加 （11 ページ）
ドメイン同期に関するビジネス ルール
ビジネス ルールの設定
ドメインの同期の概要
LDAP サーバと Provisioning の同期

ドメインの削除

ドメインを削除すると、サービス エリア、ユーザ権限、サービス テンプレート、ルール、電話番号ブロックが削除されます。また、エンドポイント、電話番号、ライセンス機能、および

Unified Presence ユーザ設定のインスタンスが、グローバル リソース ネームスペースに移動します。

ドメインの削除の実行中は、ドメインの削除が完了するまで、ドメイン内でアクティビティを実行しないでください。

ドメインを削除する前に、システムをメンテナンス モードにする必要があります。また、ドメインを削除する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- アクティブなリリース済みオーダーがない（回復不能または回復可能なエラーを含む）。
- アクティブなバッチ プロジェクトがない。
- ドメインの同期の実行中でない。
- コール プロセッサまたはユニファイド メッセージ プロセッサの同期の実行中でない

ステップ 1 Prime Collaboration Provisioning をメンテナンス モードにします（メンテナンス モード を参照）。

ステップ 2 **[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）]** を選択します。

ステップ 3 削除するドメインを選択し、[削除（Delete）] をクリックします。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

[ドメイン（Domain）] リスト ページを更新し、ステータスを確認します。

サービス エリア

サービス エリアとは、地理的、組織的、または技術的な境界を超えて IP テレフォニー サービスとメッセージング サービスを構成および管理するために使用する、ドメイン内のグループのことです。サービス エリアは、一般的にはサービスを提供するロケーションとして機能し、オーダー処理の際に使用するプロビジョニング属性値を決定するテンプレートのメカニズムを提供します。

サービスエリアは、ビジネスの視点から見たサービスを、そのサービスを提供する技術にマッピングします。

また、サービス エリアは、そのサービス エリアにプロビジョニングされるユーザについて、ロケーション、デバイス プール、およびルート パーティションの各割り当てでどれを使用するのかを指定することにより、Cisco Unified CM のパーティションとサービス クラスを処理します。

たとえば、Cisco Unified Communications Manager に関連付けられたサービス エリアでは、Cisco Unified Communications Manager 内で各製品が使用するデバイス グループ、ルート パーティション、ロケーション、および外線電話番号マスクが定義されます。

この場合、サービス エリアを設定するときに、サービス エリアに対して選択したコール プロセッサに基づいて、サービス エリアに割り当て可能なルート パーティションのリストが提示

されます。サービス エリアに関連付けられたルート パーティションがない場合、電話番号と回線は Cisco Unified Communications Manager のデフォルト ルート パーティションに作成されます。また、主要なボイスメール設定とコール転送動作もサービスエリアによって決定されます。

サービス エリアの作成時に Cisco Unified CM の同期が完了することを確認します。サービス エリアへのコール プロセッサ オブジェクト（ルート パーティション、デバイス プール、およびロケーションなど）のマッピングは、同期後にのみ行なえます。

Cisco Unity Connection ユニファイド メッセージ プロセッサでは、ユニファイド メッセージ プロセッサをサービス エリアに割り当てる場合、加入者テンプレートと加入者サービス クラス（CoS）を設定できます（加入者テンプレートと加入者 CoS にはそれぞれ、Text-To-Speech（TTS）機能が有効なものと無効なものがあります）。これらのテンプレートは、サービス エリアでのユーザのボイスメール プロビジョニングに使用できます。

（注） コール プロセッサとして Cisco Unified Communications Manager Express を設定したサービス エリアでは、デバイス プールだけを選択に使用できます。ルート パーティションは使用できません。

サービス エリアの追加

サービス エリアを設定するときは、次の操作を実行できます。

- コール プロセッサと関連するオブジェクト（Cisco Unified Communications Manager ではルート パーティション、デバイス プールなど）を指定することにより、サービス エリアを対応するコール プロセッサ オブジェクトにマッピングします。同様に、サービス エリアをユニファイド メッセージ プロセッサとユニファイド プレゼンス プロセッサにマッピングします。

  開始ウィザードでドメインに[コール プロセッサ（Call Processor）] を追加した場合、[コーリング サーチ スペース（Calling Search Spaces (CSS)）]、[リージョン（Region）]、[ロケーション（Location）]、[デバイス プール（device pool）] などのフィールドが自動設定されます。

- サービス エリアのユーザ タイプを指定します（サービス エリアから製品をオーダーできるのは、サービス エリア内のユーザだけです）。

  ドメイン ルールの DefaultUserType に基づくデフォルトのユーザ権限は [従業員（Employee）] です。

- サービス エリア ユーザの電話番号ブロックを作成します。

- 選択したコール プロセッサにプレゼンス プロセッサが関連付けられている場合に、ユニファイド プレゼンス プロセッサの設定にプレゼンス プロセッサを表示します。

（注） サービスエリアをドメインに割り当てた後で、別のドメインに移動することはできません。また、コール プロセッサ、ユニファイド メッセージ プロセッサ、またはユニファイド プレゼンス プロセッサをサービス エリアに割り当てた後で、それらを変更することもできません。

サービス エリアを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）]** を選択します。

ステップ 2 [すべてのドメイン（All Domains）] ペインで特定のドメインを展開し、[サービス エリア（Service Areas）] をクリックします。

ステップ 3 サービス エリアを作成するドメインを選択します。

ステップ 4 [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 5 [サービスエリアの設定（Service Area Configuration）] ページで、必要なフィールドに入力して [保存（Save）] をクリックします。次の表に必須フィールドを示します。

既存のサービス エリアを編集するには、左ペインでサービス エリアのリストを展開し、編集するサービス エリアをクリックします。また、テーブルからサービス エリアを選択し、[編集（Edit）] をクリックする方法もあります。

既存のサービス エリアの情報のコピーを作成するには、表でサービス エリアを選択して、[コピー（Copy）] をクリックします。

表 *1:* サービス エリア設定のフィールド

フィールド	説明
[共通デバイス設定（Common Device Config）]	サービスエリアの共通のデバイス設定。[共通デバイス設定（Common Device Config）] では、次の設定を制御できます。 • [ソフトキー テンプレート（Softkey Template）] • [ユーザ保留 MOH 音源（User Hold MOH Audio Source）] • ネットワーク保留 MOH 音源（Network Hold MOH Audio Source） • ユーザ ロケール（User Locale） • [MLPP 通知（MLPP Indication）] • [MLPP プリエンプション（MLPP Preemption）] • [MLPP ドメイン（MLPP Domain）] （注） このフィールドが表示されるのは、Cisco Unified Communications Manager 6.0 を選択した場合だけです。
[ロケーション（Location）]	デバイスに割り当てられるロケーション。サービス エリアを追加する場合、開始ウィザードでドメインに関連付けられたいずれかのコールプロセッサを追加しているなら、このフィールドは任意です。
[パーティション（Partition）]	サービスエリアのルート パーティション。これは、Cisco Unified Communications Manager のパーティションと同じです。
[デバイスプール（Device Pool）]	サービス エリアのデバイス プール。
[音声ゲートウェイ参照（Voice Gateway References）]	サービス エリアの音声ゲートウェイ参照。

フィールド	説明
[Exchange サーバ（Exchange Server）]	Cisco Unity Connection で IMAP 用の Exchange Server を設定するには、Cisco Unity Connection システムで[システム設定（System Settings）] > [外部サービス（External Services）] > [新規追加（Add New）] を選択し、必要なフィールドに入力します。
[加入者テンプレート（Subscriber Template without TTS Enabled）]	ユニファイドメッセージプロセッサのユーザに対してユニファイド メッセージングを有効にするために使用される加入者テンプレート。
[電話番号ブロック（Directory Number Blocks）]	サービス エリアに割り当てられている電話番号ブロック。

- [共通デバイス設定（Common Device Config）]、[ロケーション（Location）] および [パーティション（Partition）] フィールドは、Cisco Unified Communications Manager にのみ適用されます。
- [TTS が有効な加入者 CoS（Subscriber CoS with TTS Enabled）]、および [TTS が有効でない加入者 CoS（Subscriber CoS without TTS Enabled）] フィールドは、Unity および Unity Connection にのみ適用されます。

関連トピック

自動サービス プロビジョニング （15 ページ）
電話番号ブロックの追加 （11 ページ）

サービス エリアの削除

サービス エリアを削除するには、次の条件が満たされている必要があります。

- システムがメンテナンス モードである。
- アクティブなリリース済みオーダーがない（回復不能または回復可能なエラーを含む）。
- アクティブなバッチ プロジェクトがない。
- ドメインの同期の実行中でない。
- プロセッサの同期の実行中でない。

これらの条件が満たされていない場合、サービスエリアを削除しようとすると、削除操作は開始されないというメッセージがページに表示されます。

サービスエリアの削除の実行中は、そのサービスエリアの削除が完了するまでアクティビティは実行されません。

ステップ 1 Prime Collaboration Provisioning をメンテナンス モードにします（メンテナンス モード を参照）。
ステップ 2 **[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）]** を選択します。
ステップ 3 ドメインを展開して [サービスエリア（Service Area）] をクリックします。
ステップ 4 目的のサービス エリアを選択して [削除（Delete）] をクリックします。
ステップ 5 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックしてサービス エリアを削除します。

電話番号ブロック

電話番号ブロック内の番号は、それらが作成される Cisco Unified Communications Manager に対して相対的です。Prime Collaboration Provisioning では、電話番号は Cisco Unified Communications Manager と同様に処理されます。

サービスのオーダーを作成する際に電話番号ブロックがないサービス エリアを選択する場合は、選択された回線番号だけを使用できます。

電話番号インベントリを使用して個々の電話番号を設定することも可能です。詳細については、電話番号の管理を参照してください。

次の表に、電話番号のブロックを作成するためのフィールドを示します。

表 *2 : [*電話番号ブロック（*Directory Number Blocks***）*]* フィールドの説明**

フィールド	説明
[プレフィックス（Prefix）]	電話番号ブロックのプレフィックス。
[最初の番号（First Number）]	電話番号ブロックの最初の番号。
[最後の番号（Last Number）]	ブロックの最後の電話番号。
[最小長（Minimum Length）]	プレフィックスを除く電話番号の最小桁数。番号にゼロを埋めるためにシステムによって使用されます。
[ブロックサイズ（Block Size）]	このフィールドは、[サービスエリア（Service Area）]ページを保存した後に入力されます。

E.164 のサポート

Cisco Unified Communications Manager バージョン 7.x 以降を使用している場合は、Provisioning で国際エスケープ文字+を設定できます。これにより、電話ユーザが、着信側に関連付けられる国際直接ダイヤル プレフィックス/国際エスケープ コードを記憶し、入力する必要なしに、コールを発信できるようになります。デュアルモード電話などの電話モデルによっては、電話ユーザは電話のキーパッドで + をダイヤルできます。その他の場合、電話ユーザは、+ を含むコール ログ ディレクトリ エントリにアクセスすることによって、コールに返信できます。

国際エスケープ文字 + は、完全な E.164 番号形式の国際アクセス コードを示します。たとえば、NANP 番号には、形式 +1 214 555 1234 で、E.164 国際形式が含まれます。+ は、各国のサービス プロバイダーが国際アクセス コードに置換し、グローバル ダイヤル プランを形成するための先行文字です。

+ または \+ を入力して、国際エスケープ文字を示すことができます。

E.164 形式の電話番号を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 電話番号では、番号の先頭（プレフィックス）だけで、国際エスケープ文字を設定できます（\+5678、+0034 など）。
- サポートされているパターンに対して国際エスケープ文字を設定するために、パターンまたは電話番号フィールドに \+ または + を入力できます。
- [選択した回線（Chosen Line）] オプションを使用し、オーダーした回線に対して E.164 形式の電話番号を割り当て可能です。
- E.164 は、Cisco Unified Communications Manager Express ではサポートされていません。
- Unity Connection 9.0 以上のバージョンでは、E.164 形式の電話番号がサポートされるので、元の電話番号（+ 記号付き）が内線番号フィールドに表示されます。
- 拡張電話サービス、ユニファイド メッセージング サービス、メッセージング サービスなどのバンドル製品をオーダーする際に、[自動割り当て回線（Auto-assigned Line）] タイプのオプションを選択した場合は、オーダーの作成中にボイスメール製品の [代行内線番号（Alternate Extension）] フィールドは自動的に入力されません。代行内線番号は、使用可能な位置の末尾に追加され、オーダーの完了時に表示されます。

  [選択した回線（Chosen Line）] タイプのオプションを選択した場合、代行内線は [ボイスメールの詳細オーダー設定（Voicemail Advanced Order Configuration）] ページで、使用可能なインデックス（1、2、3 など）が自動的に入力されます。
- ミートミー パターン、コール パーク パターン（およびダイレクト コール パークなどの関連するすべてのコール パーク機能）、およびコールピックアップ パターンは、国際的なエスケープ文字（+）をサポートしていません。そのため、[インフラストラクチャ設定（Infrastructure Configuration）] ページでこれらの機能に対して設定したパターン フィールドに、\+ を入力することはできません。

Provisioning は、次に対する [電話番号（Directory Number）] フィールドで、「+」文字をサポートします。

- 電話番号（DN）ブロック（サービス エリアの下）
- EM アクセス回線および RDP 回線製品
- プロビジョニング属性
  - スピード ダイヤル
  - ビジー ランプ フィールド
  - コール転送

- インフラストラクチャ製品
  - 同報リスト
  - 基本コール キューイング

電話番号ブロックの追加

新しい電話番号ブロックを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）]** を選択します。

ステップ 2 左のセレクタ ペインでドメインおよびサービスエリアを展開し、目的のサービス エリアを選択します。

ステップ 3 [電話番号ブロック（Directory Number Block(s)）] フィールドで、[行の追加（Add Row）] をクリックします。

ステップ 4 目的のフィールドに入力して、[保存（Save）] をクリックします。

（注） [最小長（Minimum Length）] フィールドは、プレフィックスを除く電話番号の最小桁数です。番号にゼロを埋めるためにシステムによって使用されます。たとえば、Prefix＝408、First Number = 0、Last Number = 100、Minimum Length = 4 の場合、電話番号ブロックの範囲は 4080000 ～ 4080100 になります。

編集するには、電話番号ブロックを選択して **[編集（Edit）]** をクリックします。必要な変更を行って、**[保存（Save）]** をクリックします。変更をキャンセルするには、**[キャンセル（Cancel）]** をクリックします。

電話番号ブロックを削除するには、**[削除（Delete）]** をクリックします。

ユーザ権限の追加

Prime Collaboration Provisioning はユーザ志向のプロビジョニング製品であり、人間のユーザと、userID で定義されるオープン スペースの場所が必要です。この方法により、共有エリアのユーザとデバイスを簡単に特定することができます。ユーザ ロールは複数の目的に使用できます。ユーザ ロールにより、請負業者、役員、販売員といったさまざまなユーザ タイプ向けにオーダー可能な製品とサービスを制御するポリシーの適用が可能です。これらは、オーダー時にオーダー管理者に表示される選択肢を制御するフィルタリング プロセスでも使用されます。また、ユーザ ロールの設定は、自動サービス プロビジョニング処理の際、特定のユーザ タイプ向けに、オーダーされるサービスと適用されるサービス テンプレートを決定します。管理者はさまざまなサービス レベルを定義するために、多数のユーザ ロールを作成できます。

デフォルトのユーザ権限は次のとおりです。

- [従業員（Employee）]：新しいユーザに割り当てられるデフォルトのロールです。

（注） デフォルト ロールはドメイン ルールで設定されます。

組織内での従業員の標準的な設定に一致するように [従業員（Employee）] ユーザ ロールを設定します。[従業員（Employee）] ユーザ権限をニーズに合わせて設定しておかないと、サービス オーダー プロセスの間に必要なオプションが表示されなくなります。

- [エグゼクティブ（Executive）]：より多くのサービス設定を持つ追加権限です。
- [ルーム（Room）]：[ルーム（Room）] のラベルが付いたロールは、共有エリア、ロビーの電話機などのオープン エリア エンドポイント デバイスの一般的なロールとして提供されます。

（注）
- Prime Collaboration 11.0 以降のバージョンから、疑似ロールはルーム ロールとして表されます。Prime Collaboration を 10.x から 11.0 にアップグレードしても、疑似ロールは保持されます。
- ユーザのロールを [ユーザ（User）] から [オープンスペース（Open Space）]、または [オープンスペース（Open Space）] から [ユーザ（User）] に変更することができます。
- ユーザのロールを疑似から非疑似、または非疑似から疑似に変更することはできません。

次の表に、ロールに基づく Cisco Unified CM でのユーザ アカウントの作成ステータスを示します。

ロール	疑似	非疑似
[ユーザ（User）]	ユーザ アカウントは Cisco Unified CM で作成されません	ユーザ アカウントは Cisco Unified CM で作成されます
オープン スペース（Open Space）	ユーザ アカウントは Cisco Unified CM で作成されません	ユーザ アカウントは Cisco Unified CM で作成されます

ユーザの追加時に、管理者がユーザのロールを指定します。[オープン スペース（Open Space）] ロールを追加すると、管理者はルームのロールを指定します。

擬似ユーザには1つ以上のエンドポイントを関連付けることができます。たとえば、会議室を 1 つ以上のエンドポイントを持つ疑似ユーザとする一方で、建物は数百のエンドポイントが関連付けられた疑似ユーザにすることができます。

これらのユーザ権限は、Cisco Prime Collaboration Provisioning の各ドメインに存在します。ユーザ権限の各セットは、各ドメインで事前定義済みのユーザ権限を追加、削除、変更することでカスタマイズできます。

ユーザ権限を追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）]** を選択します。

ステップ 2 [すべてのドメイン（All Domains）] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限（User Roles）] をクリックします。

ステップ 3 特定のドメイン ページの [ユーザ権限（User Roles）] で、[追加（Add）] をクリックします。

ステップ 4 [ユーザ権限の設定（User Role Configuration）] ページで、ユーザ ロール名、タイプ、ドメイン、回線、サービス、サービス バンドルの必須情報を入力し、[ルーム権限（Room Role）] の下のチェックボックスをオンにしてユーザを擬似ユーザとして指定し、[保存（Save）] をクリックします。

（注） ユーザ ロール名で有効な値は、英数字（a～z、A～Z、0～9）、ピリオド（.）、ハイフン（-）、アット マーク（@）、アンダースコア（_）ですが、引用符（"）、山カッコ（<>）、バックスラッシュ（\）、アンパサンド（&）、およびパーセンテージ（%）を含めることはできません。

ステップ 5 （任意）ユーザ ロールの作成とともにサービスをプロビジョニングするには、自動サービス プロビジョニングを有効にします。

ユーザを追加するときに、ユーザ権限に基づいて自動プロビジョニング パラメータを選択できます。自動プロビジョニングは、ユーザに割り当てられているユーザ ロールに対して選択したサービスを自動的にプロビジョニングします。

自動サービス プロビジョニングを有効にしない場合は、サービスがプロビジョニングされることなく、ユーザ権限が作成されます。ユーザに対して手動でサービスをプロビジョニングできます（[ユーザプロビジョニング（User Provisioning）] を選択します）。

ステップ 6 （任意）[サービス テンプレート割り当てテーブル（Service Template Assignment Table）] で自動プロビジョニングとクイック サービス プロビジョニングで使用可能なテンプレートを一覧表示します。自動プロビジョニングに使用されるデフォルト テンプレートの [デフォルト（Default）] カラムには、[はい（yes）] と表示されています。テンプレートを編集するには、対象の行を選択してフィールドを編集するか、対象のオプション ボタンを選択して [編集（Edit）] アイコンをクリックします。それぞれのカラムで異なるサービス、サービス エリア、エンドポイント モデル、テンプレートを選択して保存できます。

（Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以降の場合） [サービス（Service）] ドロップダウン リストから [エンドポイント（Endpoint）] を選択し、クイック サービス プロビジョニングの [エンドポイントモデル（Endpoint Model）] カラムを有効にする必要があります。選択したエンドポイント モデルに基づいて、[テンプレート（Template）] ドロップダウン リストにテンプレートが表示されます。

（Cisco Prime Collaboration リリース 11.2 以降の場合） [サービス（Service）] ドロップダウン リストから [エクステンションモビリティアクセス（Extension Mobility Access）] を選択して [エンドポイントモデル（Endpoint Model）] カラムを有効にする必要があります。このカラムには、EM アクセスでサポートされるエンドポイントが表示されます。サービスエリアをサービステンプレートと関連付けることを推奨します。[EMアクセス（EM Access）] をオーダーする際、[サービステンプレート（Service Template）] ドロップダウンには、[ユーザ権限（User Role）] ページで選択したエンドポイントとユニバーサル電話に基づいたテンプレートが表示されます。エンドポイント モデルを選択すると、ユニバーサル電話テンプレートと、選択した電話機モデル用に作成したテンプレートが [サービステンプレート（Service Template）] ドロップダウンに表示されます。

エンドポイント モデルで作成できるのは、以下のタイプのサービス テンプレートです。

- エンドポイント モデルに固有のテンプレート。
- エンドポイント モデルのシリーズに適用できるテンプレート。
- すべてのエンドポイント モデルに適用できるユニバーサル テンプレート。

次に例を示します。

- Cisco 7861 を選択すると、[テンプレート（Template）] カラムはこれらの 3 つのテンプレートをすべて表示します。
- Common 78*xx* を選択すると、[テンプレート（Template）] カラムにはシリーズ テンプレートおよびユニバーサル エンドポイント テンプレートのみが表示されます。
- ユニバーサル エンドポイントを選択した場合、[テンプレート（Template）] カラムにはユニバーサル エンドポイントのテンプレートのみが表示されます。
- Cisco 7861 のプロビジョニング時にモデル固有のデフォルト テンプレートを使用できず、デフォルトとして 78*xx* およびユニバーサル テンプレートが選択されている場合は、78*xx* テンプレートが適用されます。
- Cisco 7861 モデル固有のテンプレートと 78*xx* テンプレートのどちらも使用できず、デフォルトとしてユニバーサル テンプレートが選択されている場合は、ユニバーサル テンプレートが適用されます。
- ユニバーサル テンプレートも使用できない場合は、デフォルト テンプレートが適用されます。

（注） エンドポイント モデルごとに割り当てることのできる サービス テンプレートは 1 つだけです。自動プロビジョニングとクイック サービス プロビジョニングの両方に新しいサービス テンプレートを割り当てるには、サービス エリアとエンドポイント モデルの異なる組み合わせを選択します。

ステップ 7 続行するには [保存（Save）] をクリックします。

- ユーザ権限を設定するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で [編集（Edit）] をクリックします。
- ユーザ権限を削除するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で [削除（Delete）] をクリックして [OK] をクリックします。
- ユーザ ロール クイック ビューには、そのユーザ ロールに対して選択されたドメイン、エンドポイントの数、サービス、サービス バンドルが表示されます。

  また、自動プロビジョニングの有効または無効も表示されます。有効になっている場合は、自動プロビジョニングに対して選定されているエンドポイント、サービス、サービス バンドルがユーザ権限クイック ビューに表示されます。サービス テンプレート クイック ビューには、特定のサービス エリアとユーザ権限の組み合わせに対して自動プロビジョニングが使用されるかどうかが表示されます。

トラブルシューティング

問題：オープン スペース ロールを持つユーザを追加したり、ユーザ ロールを含むオープン スペースを追加したりする場合に、新しいユーザまたはオープン スペースを作成できません。同様に、擬似ロールおよび非疑似ロールを持つユーザを追加したり、疑似ロールおよび非疑似ロールを含むオープン スペースを追加したりする場合に、新しいユーザまたはオープン スペースを作成できません。**推奨処置**：バッチ ファイルの **SubscriberType** カラムに適切なロールを使用します。

問題：バッチで指定されたロールがないと、オープン スペースを作成できません。**推奨処置**：使用可能なオープン スペースのロールを選択します。オープン スペース ロールが使用できない場合は、オープン スペース ロールを作成してから、ルームを作成するロールを選択します。

関連トピック

ユーザの追加

サービス テンプレートの作成 （21 ページ）

自動サービス プロビジョニング （15 ページ）

ユーザ権限とサービスの関連付け

特定のエンドポイントに権限が関連付けられているユーザだけが、そのサービスをオーダーできます。エンドポイントとサービス、個々のサービスのオーダーを作成するか、またはバンドルされたサービスをオーダーできます。表 1を参照してください。

ステップ 1 [プロビジョニング セットアップ（Provisioning Setup）] を選択します。

ステップ 2 [すべてのドメイン（All Domains）] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限（User Roles）] をクリックします。

ステップ 3 選択したドメイン ペインの [ユーザ権限（User Roles）] で [追加（Add）] をクリックします。

ステップ 4 ユーザ権限の名前を指定し、目的のエンドポイント、回線、サービス、およびサービス バンドルと関連付けます。[エンドポイント（Endpoints）]、[サービス（Services）]、および [サービスバンドル（Service Bundles）] は必要な数だけ選択できます。

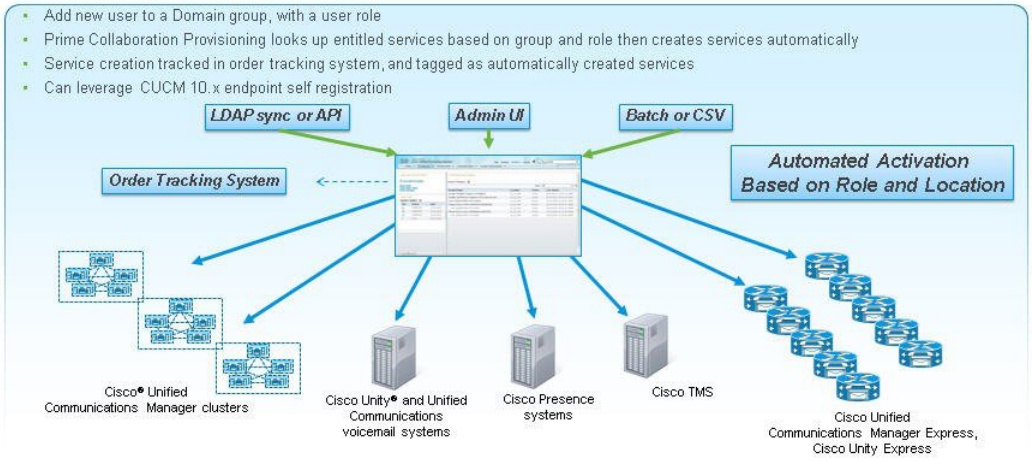
（注） ユーザ権限の設定を変更するには、**[ユーザ権限（User Roles）]** を選択します。特定のドメインの [ユーザ権限（User Roles）] で、目的のユーザ権限を選択して [編集（Edit）] をクリックします。

ステップ 5 [保存（Save）] をクリックします。

自動サービス プロビジョニング

自動サービス プロビジョニング（ASP）は、ユーザの追加時に、新しいユーザのサービスを自動的にプロビジョニングする機能です。自動サービス プロビジョニングは通常、LDAP のインポート、CSV/バッチ インポート、またはユーザ インターフェイスでの新規ユーザ追加機能によって動作します。自動サービス プロビジョニングは、Unified Communications 10.x 以上のアプリケーションでサポートされます。

図 *2:* 自動サービス プロビジョニング



自動サービスプロビジョニングは、ユーザの作成時にそのユーザに多くのサービスを自動的に作成することができます。たとえば、ASP を使用すると、Prime Collaboration に自動的に電話、回線、ボイスメール、IM&P、EM、SNR、Jabber for iPhone、デスクトップ用 Jabber を同時に追加させることができます。

異なるサービスセットを持つ異なるロールを作成すると、サービスのリストも変わります。たとえば、手動オーダー時間のサービスは一致していて、ユーザ ロールの自動サービス プロビジョニング セクションの設定は異なる、「Director」と「Director-Full Features」という二つのユーザ ロールを作成できます。最初のロールでは ASP で電話、回線、ボイスメールだけをオンにすることができます。2 番目のロールでは ASP で電話、回線、ボイスメール、IM&P、EM、SNR、Jabber for iPhone およびデスクトップ用 Jabber をオンにすることができます。

ユーザ ロールに対して自動サービス プロビジョニングを有効にする場合は、サービス エリア（自動プロビジョニングで使用）と、ユーザ ロールに割り当てられているユーザに対して自動的にプロビジョニングできるサービスを選択する必要があります。ユーザ ロールの追加については、ユーザ権限の追加 （11 ページ） を参照してください。

次のサービスに対して自動サービス プロビジョニングを有効にできます。

- エンドポイント（Endpoint）
- 回線（Line）
- シングル ナンバー リーチ（モビリティ、リモート接続先プロファイル、およびリモート接続先プロファイル回線を有効にする）
- IM & Presence
- [ボイスメール（Voicemail）]
- [エクステンションモビリティアクセス（Extension Mobility Access）]
- [エクステンション モビリティ回線（Extension Mobility Line）]
- Cisco Jabber

エンドポイント サービスに対して自動サービス プロビジョニングを有効にする際は、次のオプションを選択できます。

- [デフォルトエンドポイント（Default Endpoint）]：このオプションを選択した場合は、ユーザに対してデフォルトで自動プロビジョニングされるエンドポイントモデルを選択する必要があります。
- [セルフプロビジョニングされたエンドポイント（Self-Provisioned Endpoint）]：このオプションを選択した場合、ユーザは管理者に連絡せずに各自のエンドポイントをプロビジョニングできます。ユーザは、ネットワークにエンドポイントを接続して、ユーザを識別するためのいくつかの指示に従うことにより、エンドポイントを追加できます。

  ユーザがセルフプロビジョニングできるエンドポイントの最大数も指定できます。

  ユーザに対してセルフプロビジョニングを有効にすると、そのユーザ向けにエンドポイントのない回線が自動的に作成されます。この回線には、後でセルフプロビジョニング エンドポイントを追加できます。

  シングルナンバー リーチ サービスに対して自動プロビジョニングを有効にした場合、ユーザは Cisco Unified Communications Manager の Self-Care ポータルにアクセスしてシングルナンバー リーチをアクティブに必要があります。Cisco Unified Communications Manager で使用できるセルフプロビジョニング機能については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

ユーザ ロールまたはユーザに対して自動サービス プロビジョニングを有効にする場合は、次の点に注意してください。

- 自動サービス プロビジョニングは、（Provisioning ユーザ インターフェイス、バッチ プロビジョニング、Add User NBAPI を介して追加された、または LDAP サーバから同期された）新規ユーザにのみ適用できます。既存のユーザに対して自動サービス プロビジョニングを開始することはできません。
- 自動サービス プロビジョニングは、ドメインの同期および Cisco Unified CM 変更通知によって Cisco Prime Collaboration Provisioning に追加されたユーザに対してはサポートされません。
- ユーザ ロールを作成するときに、自動サービス プロビジョニングに対して複数の回線サービスを選択すると、回線のプロビジョニングに使用された電話番号が回線サービス間で共有されます。
- LDAP と同期されたユーザのユーザ ロールは、ドメイン フィルタに基づいてマッピングされます。
- 新規ユーザを作成する際は、そのユーザに対して複数のユーザ ロールを選択できますが、自動プロビジョニングに対しては 1 つのデフォルトのユーザ ロールのみを選択できます。
- 新規ユーザに対して自動サービス プロビジョニングを有効にする場合は、自動プロビジョニングに使用するデフォルトのサービス エリアも指定する必要があります。
- 自動プロビジョニングの回線タイプとして [自動割り当て回線（Auto-Assigned Line）] を選択する場合は、選択済みのサービス エリアに電話番号ブロックが設定され、プロビジョニングに利用可能な電話番号が含まれている必要があります。サービス エリアに利用可能な電話番号ブロックがない場合は、自動プロビジョニングのサービス エリアを選択するときに、[ユーザの追加（Add User）] ページに [自動割り当て回線（Auto-Assigned Line）] 回線タイプ オプションが表示されません。

- 回線タイプとして [選択した回線（Chosen Line）] を選択する場合は、電話番号も入力する必要があります。入力しないと、自動プロビジョニングに対してユーザの詳細が保存されません（[保存して続行（Save and Continue）] をクリックすると、確認メッセージが表示されます）。
- エクステンション モビリティ回線はエクステンション モビリティ アクセスがあるユーザに対してのみ、自動プロビジョニングできます。
- Cisco Prime Collaboration Provisioning は、自動プロビジョニングされた電話にダミーの MAC アドレスを割り当てます。
- ユーザ ID に UTF 文字が含まれている場合、SNR および EM アクセス/EM アクセス バンドルはプロビジョニングできません。RDP 名には、次の文字を使用できます。A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9、ハイフン（-）、ピリオド（.）、アンダースコア（_）。[EM アクセス名（EM Access Name）] に使用できる文字は、A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9、および特殊文字（ピリオド（.）、カンマ（,）、-、_、!、@、#、$、(,)、*、^、;、:、+、=、~、`、?、/、'、[,]、{,}
- ユーザ ロールに対して自動サービス プロビジョニングを有効するときに、Jabber サービスを選択すると、そのユーザ ロールに割り当てられているユーザに Jabber および関連する回線サービスが自動プロビジョニングされます。ユーザ ロールに対してエンドポイント サービスと Jabber サービスの両方を選択すると、Cisco Prime Collaboration Provisioning は、共有 DN を備えた 2 つの回線を自動的にプロビジョニングする一方で、エンドポイントと Jabber サービスを自動プロビジョニングします。
- Jabber クライアントのボイスメール/ビジュアル ボイスメール機能を設定するには、ユーザは、Provisioning Self-Care ポータルまたは [暗証番号/パスワードの管理（Manage PIN/Password）] オプションを使用して、Unity Connection の Web パスワードを更新する必要があります。

クイック サービス プロビジョニング

Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以降の場合

クイック サービス プロビジョニング機能は、複数の手順でサービスをオーダーするオーダー ウィザードを使用せずに、Prime Collaboration Provisioning で定義されたユーザの初期または追加サービスを容易かつ迅速にプロビジョニングします。[サービスのプロビジョニング（Provision Services）] と呼ばれる新しいダイアログ ボックスが [ユーザ プロビジョニング（User Provisioning）] ページに表示され、既存のユーザにクイック サービス プロビジョニングを実行します。既存のユーザのクイック サービス プロビジョニングは、

- ユーザ レコード ページか（以下の手順を参照）、
- ユーザ プロビジョニング ページから有効にできます（ユーザを選択し、[サービスのプロビジョニング（Provision Services）] を選択して続行します）。

また、ユーザ レコード ページの [カスタム サービス ウィザード（Custom Services Wizard）] という新しいボタンでも、通常の方法でサービスをプロビジョニングすることができます。

ユーザ レコード ページからクイック サービス プロビジョニングを有効にするには、次の手順を実行します。

始める前に

クイック サービス プロビジョニングを有効にする前に、次の点に注意してください。

- サービス エリアを選択してください。クイック サービス プロビジョニングを実行するには、ドメインにサービス エリアを追加するか、ユーザ ロールをサービス エリアに関連付ける必要があります。
- ユーザに関連付けられたユーザ ロールは、[サービス テンプレートの適用基準（Apply Service Template based on）] ドロップダウンに表示されます。ユーザ ロールのページでは、サービス エリアに関連付けられているサービス テンプレートがデフォルト テンプレートとして設定されています。このテンプレートは、[サービステンプレートの適用基準（Apply Service Template based on）] ドロップダウンでそのユーザ ロールが選択されている場合に、クイック サービス プロビジョニング時に適用されます。
- どのサービス テンプレートも [デフォルト（Default）] として選択されていない場合は、クイック サービス プロビジョニング時に組み込みテンプレートが適用されます。組み込みテンプレートは、基本設定のみを持つデフォルト テンプレートです。
- ユーザ ロールに基づいてサービステンプレートだけが適用され、[ユニファイド コミュニケーション サービス（Unified Communication Services）] エリアの下のサービスが有効になります。
- [ユーザ サービス（User Services）] 用のユーザ サービス テンプレートを適用するには、次の手順を実行します。
  - [ユーザ ロールの設定（User Role configuration）] ページの [サービス（Services）] セクションで [ユーザ サービス（User Services）] を選択する必要があります。
  - ユーザ サービス テンプレートを作成し、[サービス テンプレート割り当て（サービス テンプレート割り当て）] テーブルでデフォルトとしてマークする必要があります。
  - 新規および既存ユーザ向け：[クイック サービス プロビジョニング（Quick Service Provisioning）] ダイアログ ボックスで [IM & Presence] を選択します。
  - IM & Presence がすでに有効化されているユーザの場合、[クイック サービス プロビジョニング（Quick Service Provisioning）] ダイアログ ボックスはグレー表示され、テンプレートを適用できません。
- 次のサービスのいずれかを選択またはチェックする場合、回線タイプを選択する必要があります：回線、シングル ナンバー リーチ、EM サービス、および Cisco Jabber。
- [回線タイプ（Line Type）] ドロップダウン リストから [選択した回線（Chosen Line）] を選択するときに電話番号を指定します。
- EM サービスのプロビジョニングを選択する場合は、EM アクセスと EM 回線の両方の回線タイプを選択する必要があります。
- いずれかの UC サービスを選択しないと、クイック プロビジョニング サービスを実行できません。

- デバイス設定時に Cisco Unified CM に EM サービス名および URL を設定していない場合、EM Access サービスを有効にできません。
- [回線タイプ（Line Type）] ドロップ ダウンに [自動割り当て回線（Auto-Assigned Line）] が表示されていない場合、選択したサービス エリアに電話番号ブロックが設定されているか、またはユーザ ロールで [自動割り当て（Auto- Assigned）] オプションが選択されているか確認する必要があります。
- シングル ナンバー リーチを有効にするには、バンドル サービスでシングル ナンバー リーチ サービスを有効にするか、またはユーザ ロール ポリシーでモビリティ、リモート接続先プロファイルおよびリモート接続先プロファイル回線を有効にする必要があります。
- ユーザ ID に UTF 文字を含む場合は、SNR および EM アクセス/EM アクセス バンドルをプロビジョニングできません。[RDP 名（RDP Name）] に使用できる文字は、A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9、ハイフン（-）、ピリオド（.）、アンダースコア（_）です。[EM アクセス名（EM Access Name）] に使用できる文字は、A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9、および特殊文字（ピリオド（.）、カンマ（,）、-、_、!、@、#、$、(,)、*、^、;、:、+、=、~、`、?、/、'、[,]、{,}）です。
- ボイスメールをプロビジョニングするには、次のサービスのいずれかを選択する必要があります。
  - 回線（Line）
  - シングル ナンバー リーチ（Single Number Reach）
  - EM サービス
  - Cisco Jabber
- 選択した電話タイプに基づいて MAC アドレスまたは適切なデバイス名を入力します。[MAC アドレス（MAC Address）] フィールドに値が指定されていない場合、エンドポイントのダミー MAC アドレスがプロビジョニングされます。

ステップ 1 [ユーザ プロビジョニング（User Provisioning）] を選択します。

ステップ 2 特定のユーザをクリックします。ユーザ レコード ページで次の手順を実行します。

- [カスタム サービス ウィザード（Custom Services Wizard）] をクリックしてステップを続け、従来の方法でサービスをプロビジョニングします。

または

- [サービスのプロビジョニング（Provision Services）] をクリックして、[サービス エリア（Service Area）] を選択します。

[サービス エリア（Service Area）] と、それに関連して表示されるユーザ ロールに基づいて、ダイアログ ボックスのサービスが有効になります。

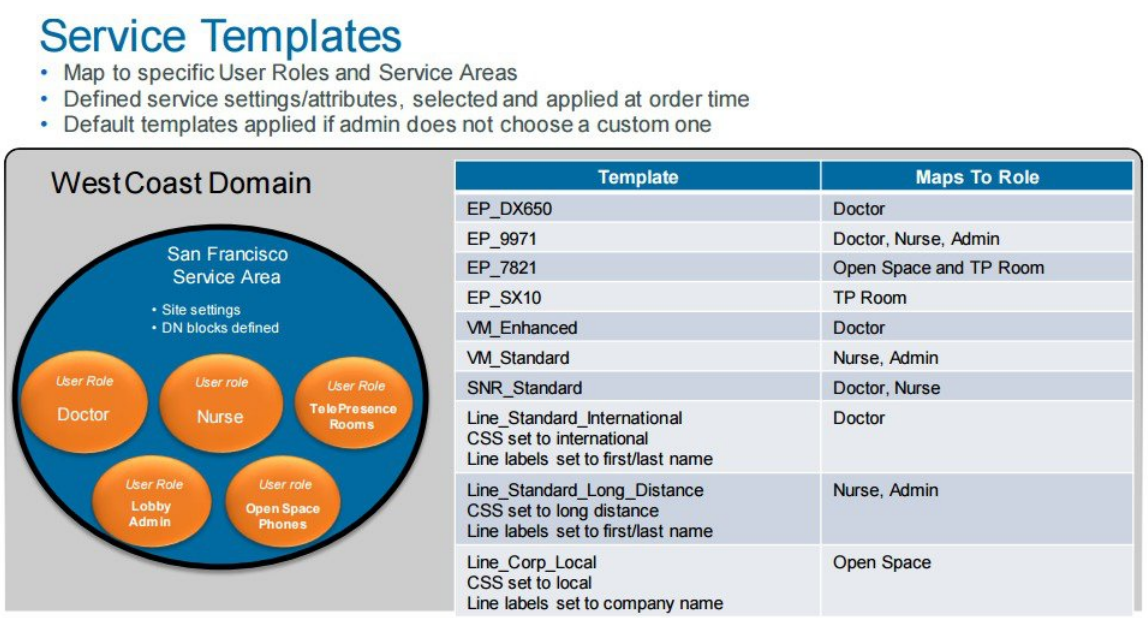
a) 各サービスの横にある該当するチェックボックスをオンにし、クイック プロビジョニングを実行します。

b) ダイアログ ボックスの [サービスのプロビジョニング（Provision Services）] をクリックするとサービスのプロビジョニングが完了し、ユーザ レコードページに戻ります。アドオン サービスの詳細については、ユーザのユーザ レコードへのアクセスを参照してください。

サービス テンプレートの作成

サービステンプレートは、管理者がデバイスを設定したりエンドユーザ向けにサービスをオーダーするときに便利です。サービステンプレートを使用することで、量の多少にかかわらず、複数の設定を1つのテンプレートにまとめ、エンドポイントまたはサービスに適用することができます。サービステンプレートにより、多数の属性を個々に設定する時間が節約され、属性の不足または属性フィールドの入力ミスを防止して正確な処理が可能になります。サービステンプレートにはサービスのプロビジョニング属性が含まれており、プロビジョニング属性を使用してサービスの属性を設定できます。プロビジョニング属性は、サービスのアクティベーション時に適用される設定です。

図 *3*:サービス テンプレート



Template	Maps To Role
EP_DX650	Doctor
EP_9971	Doctor, Nurse, Admin
EP_7821	Open Space and TP Room
EP_SX10	TP Room
VM_Enhanced	Doctor
VM_Standard	Nurse, Admin
SNR_Standard	Doctor, Nurse
Line_Standard_International CSS set to international Line labels set to first/last name	Doctor
Line_Standard_Long_Distance CSS set to long distance Line labels set to first/last name	Nurse, Admin
Line_Corp_Local CSS set to local Line labels set to company name	Open Space

オーダー時に Prime Collaboration Provisioning では、設定されたプロビジョニング属性がサービス エリア設定とともに考慮され、プロビジョニングする最終的な製品構成が決定されます。

（注） サービス エリアとサービス テンプレートを作成する前に、インフラストラクチャの同期を完了する必要があります。

（注） サービス エリアとユーザ ロールは、サービス テンプレートを作成する前に定義する必要があります。サービス テンプレートでは、サービス テンプレートの作成プロセスの一部として、サービス エリアとユーザ ロールの選択が必要です。関連付けは追加または削除できますが、関連付けがないとサービス テンプレートは使用できなくなります。テンプレートを [オーダーの追加（Add Order）] または [オーダーの変更（Change Order）] ウィザードに表示するには、サービス テンプレートをサービス エリアとユーザ ロールの組み合わせに割り当てる必要があります。

テンプレートは単一のドメインにだけ関連付けられます。ドメインには1つ以上のクラスタが関連付けられることがあります。

プロビジョニング属性の内容を設定するには、管理者権限を持っている必要があります。

すべてのエンドポイント タイプまたはすべての Cisco Unified Communications Manager バージョンに、すべての属性を適用できるとは限りません。Provisioning の設定によっては、一部の属性を使用できない場合があります。

サービス テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **[プロビジョニングのセットアップ（Provisioning Setup）]** の順に選択します。

ステップ 2 [すべてのドメイン（All Domains）] ペインで [ドメイン（Domain）] を展開し、[サービス テンプレート（Service Templates）] をクリックします。

ステップ 3 [サービス テンプレート（Service Templates）] ペインで [追加（Add）] をクリックして、テンプレート名を入力してプロセッサを選択します。

ステップ 4 サービスを選択し、サービスの必須のプロビジョニング属性を入力します。デフォルトのプロビジョニング属性はすべて、デフォルトで入力されます。

ステップ 5 [サービス（Service）] ドロップダウン リストから [エンドポイント（Endpoint）] を選択すると、追加のドロップダウン フィールド（[エンドポイント モデル（Endpoint Model）]）が表示されます。選択したサービスに基づいてエンドポイント モデルを選択します。

複数のエンドポイント モデルまたは回線に適用できる共通のテンプレートを使用できるので、エンドポイント モデルまたは回線ごとにそれぞれのテンプレートを作成する必要がなくなります。共通テンプレートは、エンドポイント ファミリに共通の属性セットをグループ化します。共通テンプレートについては、次の表で説明します。

表 *3*: 共通テンプレートの説明

共通テンプレート	説明

ファミリ エンドポイント テンプレート	• 複数のファミリ タイプ：Jabber Phones、DX Phones、69*xx*、78*xx*、88*xx* および 89*xx*。
	• エンドポイント ファミリのスーパーセット。
	• ファミリに属するエンドポイントにのみ適用されます。
	• 以下を含む、ファミリ（スーパーセット）内のエンドポイントの属性をすべてカバーします。
	  • 共通属性：たとえば、コーリング サーチ スペースと共通の電話プロファイル。
	  • モデル固有の属性：iPhone の国番号など。
	• 各属性では、ファミリ内でこの属性を含むモデル全体に共通する値（共通部分）のみを使用できます。
	• Common 69*xx* および 89*xx* などの一部のファミリ エンドポイント テンプレートは、**SIP** および **SCCP** プロトコルに加えて、**Either（エンドポイントによって決定される）**プロトコルもサポートします。
	• **Either（エンドポイントによって決定される）**プロトコルは、プロトコルを問わず、ファミリで使用可能なすべての属性をリストします。
	• **Either（エンドポイントによって決定される）**はすべての属性をカバーするため、SIP と SCCP プロトコルの両方に選択すればプロトコル選択がオーダー時に残り、テンプレートの作成手順をさらに軽減できます。

共通テンプレート	説明
ユニバーサル エンドポイント テンプレート	• 1 種類のみ：ユニバーサル エンドポイント。 • すべてのエンドポイント属性のサブセットです。 • すべてのエンドポイント タイプに適用されます。 • 共通属性のみを含む：たとえば、コーリング サーチ スペースと共通の電話プロファイル。 • 共通属性セットを持つエンドポイントのプロビジョニングを対象としています。 • 属性セットは、Cisco Unified CM のユニバーサル デバイス テンプレートと似ています。 • 各属性では、この属性を含むモデル全体に共通する値のみを使用できます。 • **SIP、SCCP、Either（エンドポイントによって決定される）**プロトコルをサポートします。 • **Either（エンドポイントによって決定される）**は、プロトコルを問わず、利用可能なすべてのユニバーサル電話属性をリストします。 • **Either（エンドポイントによって決定される）**はすべての属性をカバーするため、SIP と SCCP プロトコルの両方に選択すればプロトコル選択がオーダー時に残り、テンプレートの作成手順をさらに軽減できます。

共通テンプレート	説明
ユニバーサル回線テンプレート	• 1 種類のみ：ユニバーサル回線。 • 回線、EM 回線および RDP 回線属性のサブセットです。 • 回線、EM 回線および RDP 回線に適用されます。 • 共通属性だけを含めます。 • 共通属性セットを持つ回線、EM回線およびRDP回線のプロビジョニングを対象としています。 • 属性セットは、Cisco Unified CM のユニバーサル回線テンプレートと似ています。 • 各属性では、この属性を含む回線、EM 回線およびRDP回線全体に共通する値のみを使用できます。

次の表に、共通テンプレートとそのサポート モデルの詳細を示します。

表 *4*：共通のテンプレートの詳細およびサポートされるモデル

共通テンプレート	サポートされるエンドポイント モデル/回線
共通 Jabber	**1.** Android **2.** iPhone **3.** Tablet **4.** Desktop
Common DX	**1.** Cisco DX650 **2.** Cisco DX70 **3.** Cisco DX80
Common 69*xx*	**1.** Cisco 6901 **2.** Cisco 6911 **3.** Cisco 6921 **4.** Cisco 6941 **5.** Cisco 6945 **6.** Cisco 6961

共通テンプレート	サポートされるエンドポイント モデル/回線
Common 78*xx*	**1.** Cisco 7811 **2.** Cisco 7821 **3.** Cisco 7841 **4.** Cisco 7861
Common 88 *xx*	**1.** Cisco 8811 **2.** Cisco 8831 **3.** Cisco 8841 **4.** Cisco 8845 **5.** Cisco 8851 **6.** Cisco 8851NR **7.** Cisco 8861 **8.** Cisco 8865
Common 89 *xx*	**1.** Cisco 8941 **2.** Cisco 8945 **3.** Cisco 8961
ユニバーサル エンドポイント	すべてのモデル。例：Android、DX 80 および他の電話機。
ユニバーサル回線	回線、EM 回線および RDP 回線

共通テンプレートはバッチおよび API でサポートされます。

ファミリ エンドポイント、ユニバーサル エンドポイントおよびユニバーサル回線テンプレートを追加、更新、削除、コピーできます。また、ファミリ エンドポイント、ユニバーサル エンドポイントおよびユニバーサル回線テンプレートを適用して、必要に応じてエンドポイント/回線を更新してプロビジョニングすることができます。

結果として、1 つの共通のテンプレートを複数のエンドポイント/回線に使用して、サービス テンプレート作成プロセスを最適化できます。

（注） エンドポイントでは、共通テンプレート機能は Cisco Unified CM 10.*x* 以降でのみサポートされます。

Prime Collaboration Provisioning と Cisco Unified CM でサポートされているエンドポイント モデルが一致しない場合、Cisco Options Package （COP）ファイルを Cisco Unified CM にインストールして、不足しているエンドポイント モデルすべてを Cisco Unified CM で取得します。手順については、『Administration Guide

for Cisco Unified Communications Manager, Release 11.0(1)』の「Manage Device Firmware」の項を参照してください。

ステップ 6 サービス エリアとユーザ権限をサービス テンプレートに追加するには、[行の追加（Add Row）] をクリックします。サービス エリアとユーザ権限を選択して、[保存（Save）] をクリックします。編集するには、[編集（Edit）] をクリックして割り当てを変更します。

作成済みのテンプレートを編集または削除できます。サービステンプレートを別のドメインに新しい名前でコピーするには、**[コピー（Copy）]** をクリックします。

（注）
- [リモート接続先プロファイル（Remote Destination Profile）] のサービス テンプレートの設定中に、デバイスで使用できないユーザ ロケールを選択すると、そのオーダーは失敗します。
- 回線、EM 回線および RDP 回線のサービス テンプレートが作成され、同時に自動プロビジョニングに割り当てられる場合（回線を共有）、[回線の説明（Line Description）]、[呼び出し表示（Alerting Name）]、[ASCII呼び出し表示（ASCII Alerting Name）] に表示される値は、回線テンプレートにのみ基づきます。

（注） 作成したサービス テンプレートをデフォルトに設定するには、明示的に UserRole に移動して目的のサービス テンプレートを選択し、[サービステンプレート割り当て（Service Template Assignment）] で [はい（Yes）] を指定する必要があります。

新しいオーダーを作成する際に、[サービステンプレート（Service Template）] ドロップダウンリストから作成済みのサービス テンプレートを選択できます。

サービス テンプレート クイック ビューには、テンプレートとサービス エリアおよびユーザ ロールとの関連付けが表示されます。選択したサービス テンプレートが特定のユーザ ロールに対する自動プロビジョニングで使用されるかどうかが示されます。

トラブルシューティング

- ユニバーサル電話テンプレートに設定する属性が見つからない場合、ファミリ エンドポイント テンプレート（あれば）を使用するか、それ自体のテンプレートの使用を試みることが推奨されます。
- ユニバーサル回線テンプレートに設定する属性が見つからない場合、それ自体の回線、EM 回線および RDP 回線テンプレートを使用することが推奨されます。
- 共通テンプレートに設定する属性が見つからない場合、それ自体のテンプレートを使用することが推奨されます。属性がテンプレートの必須属性ではないが、モデルの必須属性である場合、モデルのデフォルト値がオーダー時に設定されます。

関連トピック

- 権限ロールの概要
- バッチ ヘルプでのプロビジョニング属性の説明
- ユーザのサービスのオーダー

サービス テンプレートへのキーワードの追加

Prime Collaboration Provisioning には、サービス テンプレートの作成時またはサービスのオーダー時に、プロビジョニング属性にキーワードを追加するオプションが用意されています。複数のキーワードを追加し、各キーワードの長さを指定することもできます。

これらのキーワードは、次のフィールドに移動した直後に、実際の値に画面上で自動的に置き換えられます。キーワードを置き換える場合、文字は所定の文字数に制限されます。たとえば、${COMPANY}(3) では「Cisco」は「Cis」に制限されます。

（注） キーワード置換には次の例外が適用されます。

- キーワード EXTENSION は、バックエンドだけで置き換えられます。
- ドメイン ルール属性の値を設定していない場合、その値はドメイン ルールから取得され、概要ページでのみ表示されます。

サービス テンプレートでは、次のキーワードがサポートされています。

- FIRSTNAME
- LASTNAME
- USERID
- EXTENSION
- COMPANY
- MIDNAME
- DEPT
- EMAIL（このキーワードは、エンドポイントおよびリモート接続先プロファイルではサポートされていません）
- EMPID
- MANAGER
- COUNTRY
- TITLE
- CITY
- STATE

- ZIP
- CORPEMAIL（このキーワードは、エンドポイントおよびリモート接続先プロファイルではサポートされていません）：電話、回線、およびボイスメールのオーダー時に使用されます。複数のボイスメールアカウントがある場合、このキーワードは最初のボイスメールアカウントの社内電子メールにマッピングされ、最初の社内電子メールが削除されると、次のものにマッピングされます。

キーワードを編集するには、[キーワードリストの編集（Edit Keyword List）] をクリックします。[キーワードリスト（Keyword List）] ページで、キーワードと値を変更することができます。[削除（Remove）] チェック ボックスをオンにすると、リストからキーワードを削除できます。キーワード リスト全体を削除するには、[キーワードリストの削除（Remove Keyword List）] アイコンをクリックします。

次の表に、各サービス タイプの新しいキーワードをサポートするプロビジョニング属性を一覧します。

表 *5:* プロビジョニング属性のキーワードのサポート

エンドポイント タイプ	プロビジョニング属性	ドメイン ルール
Endpoint\Extension Mobility Access\Remote Destination Profile	[名前（Name）]（この属性は Extension Mobility アクセスとリモート接続先プロファイルにのみ適用されます）。 [デバイス名（Device Name）]（この属性は Android、iPhone、タブレット、デスクトップ、および Cisco Unified Personal Communicator にのみ適用されます）。 デバイスの説明（Device Description）	DescriptionString

エンドポイント タイプ	プロビジョニング属性	ドメイン ルール
Line\ Extension Mobility Line\ Remote Destination Profile Line	• [回線の説明（Line Description）] • 呼び出し表示（Alerting Name） • [ASCII 呼び出し表示（ASCII Alerting Name）] • [表示(内部発信者 ID)（Display (Internal Caller ID)）] • [ASCII 表示(内部発信者 ID)（ASCII Display (Internal Caller ID)）] • [ASCII 回線テキストラベル（ASCII Line Text Label）] • [回線テキスト ラベル（Line Text Label）]（この属性は回線およびエクステンション モビリティ回線にのみ適用されます） • [外線電話番号マスク（External Phone Number Mask）]	LineDisplayString

エンドポイント タイプ	プロビジョニング属性	ドメイン ルール
[ボイスメール（Voicemail）]	• [ボイスメールエイリアス（Voicemail Alias）] • [ボイスメール表示名（Voicemail Display Name）] • [イニシャル（Initials）] • [役職（Title）] • [従業員 ID（Employee ID）] • [ボイスメール企業電子メール アドレス（Voicemail Corporate Email Address）] • [市区町村郡（City）] • [都道府県（State）] • [郵便番号（Postal Code）] • [部署名（Department）] • [マネージャ（Manager）] • [課金 ID（Billing ID）]	-
[ユーザサービス（User Service）]	[セルフプロビジョニングユーザ ID（Self-Provisioning User ID）]	-
ユニバーサル回線	次の属性ではキーワードがサポートされています。 • [回線の説明（Line Description）] • 呼び出し表示（Alerting Name） • ASCII 呼び出し表示（ASCII Alerting Name） • Display • [ASCII 表示（ASCII Display）]	-

トラブルシューティング

問題：オーダー時にキーワードが値に変換されない場合、キーワードの形式が間違っている場合があります。**推奨処置**：入力エラーを修正するか、またはキーワードが適切に使用されていることを確認します。

問題：自動で割り当てられた回線拡張キーワードがオーダー時に値に変換されません。**推奨処置**：拡張キーワードのままオーダーを進めます。

システム デフォルト値の使用方法

[オーダーの追加（Add Order）] ウィザード、[変更オーダー（Change Order）] ウィザード、[テンプレートの設定（Template Settings）] ページで、必須ではない属性のドロップダウン リストに [システムデフォルトを使用（Use System Default）] が表示されます。デバイスで [システムデフォルトを使用（Use System Default）] が有効な値になっている場合は、ドロップダウン リストからオプションを選択しないと、これらの属性のシステムデフォルト値がプロビジョニングされます。必須ではない属性のデフォルト値がすでに設定されている場合は、その属性の指定値が表示され、ドロップダウン リストのオプションの 1 つとして [システムデフォルトを使用（Use System Default）] が表示されます。

ドロップダウンリストで使用可能なオプションに「デフォルト」という言葉が含まれている場合（[デフォルトの言語を使用（Use Default Language）]、[電話のデフォルトを使用（Use Phone Default）]、[デフォルトのシステムポリシーを使用（Use Default System Policy）]、[デフォルト（Default）] など）、[システムデフォルトを使用（Use System Default）] はドロップダウン リストに表示されません。

（注） [システムデフォルトを使用（Use System Default）] は、[プロトコル（Protocol）] フィールドには表示されません。

必須の属性では、デフォルト値がすでに設定されている場合、指定されたデフォルト値が表示されます。デフォルト値が設定されていない場合は、ドロップダウン リストから値を選択する前に、ドロップダウン リストの最初のオプションが表示されます。ドロップダウン リストが空白で、その属性のデフォルト値が設定されていない場合は、[選択する（Make a Selection）] が表示されます。[選択する（Make a Selection）] は、次の Provisioning フィールドに表示されます。

- [選択されているエンドポイント（Selected Endpoint）]
- 選択された回線（Selected Line）
- [回線タイプ（Line Type）]
- [エンドポイント タイプ（Endpoint Type）]
- [EM 電話のタイプ（EM Phone Type）]

[システムデフォルトを使用（Use System Default）] または [選択する（Make a Selection）] は、ボイスメールおよびユニファイド メッセージング製品では表示されません。

[サービス テンプレート（Service Template）] フィールドでドロップダウン リストから値を選択していない場合は、[未選択（Not Selected）] が表示されます。

Cisco Unified Communications Manager 9.0 以下の場合は、Cisco IP Phone 8961、9951、および 9971 のエクステンション モビリティ アクセス サービス テンプレートの作成時に、[ソフトキー テンプレート（Softkey Template）] 属性で [システムデフォルトを使用（Use System Default）] を選択する必要があります。

また、[iPhone 用エクステンションモビリティアクセス（Extension Mobility Access for iPhones）] をオーダーする際、次の属性にデフォルト値を使用すると、オーダーが失敗する場合があります。

- [DND オプション（DND Option）]
- [DND 着信呼警告（DND Incoming Call Alert）]（設定専用属性）
- [MLPP 通知（MLPP Indication）]

[iPhone 用エクステンションモビリティアクセス（Extension Mobility Access for iPhones）] をオーダーする際は、これらの属性に次の値を使用してサービス テンプレートを作成し、オーダーの作成中にテンプレートを適用することをお勧めします。

- [DND オプション（DND Option）] - [コール拒否（Call Reject）]
- [DND 着信呼警告（DND Incoming Call Alert）] - [無効（Disable）]
- [MLPP 通知（MLPP Indication）] - [オフ（Off）]

電話のプロビジョニング属性の制限

CUPM_BLANK キーワード（バッチ操作ファイルでのキーワードの使用を参照）を使用するバッチを介した変更オーダーは、Cisco Unified Communications Manager ユーザ インターフェイスで共通の設定のチェックボックスを上書きする、電話プロビジョニング属性に影響しません。この現象は、電話のプロビジョニング時に Cisco Unified Communications Manager が Provisioning にこれらの属性のデフォルト値を返さないために発生します。これに該当するのは、次のプロビジョニング属性です。

- [参加および直接転送ポリシー（Join And Direct Transfer Policy）]
- 電話機をオンにする時刻（Phone On Time）
- 電話機をオフにする時刻（Phone Off Time）
- 電話機をオフにするアイドル タイムアウト（Phone Off Idle Timeout）
- 音声アラートを有効にする（Enable Audio Alert）
- EnergyWise ドメイン（EnergyWise Domain）
- EnergyWise エンドポイントのセキュリティシークレット（EnergyWise Endpoint Security Secret）
- EnergyWise オーバーライドを許可（Allow EnergyWise Overrides）
- 自動ポート同期

- ディスプレイ放置時自動消灯（Display Idle Timeout）
- 着信コール時に点灯（Display On When Incoming Call）

プロビジョニング属性のトランスフォーメーションテンプレートの設定

[回線テキストラベル（Line Text Label）] および [ASCII 回線テキストラベル（ASCII Line Text Label）] 属性では、プロビジョニング属性フィールドにトランスフォーメーションテンプレートを入力し、電話に表示される電話番号の桁を操作することができます。電話番号のマスキングの桁変換を行うと、何を表示するかを選択できます。

テンプレートでは、プロビジョニング属性のテキスト文字列内にトランスフォーメーションマスクを埋め込むことで、電話番号の任意の桁を削除、挿入、順序変更、または変更することができます。

1つのトランスフォーメーションテンプレートには、1つまたは複数のトランスフォーメーション マスクが含まれます。

トランスフォーメーション マスクでは次の文字を使用できます。

- W または w：電話番号の桁を、同じ位置に左から表示します。
- X または x：電話番号の桁を、同じ位置に右から表示します。
- .（ピリオド）：電話番号の同じ位置にある桁を無視します。
- 数字：出力にそのまま表示されます。
- %（パーセント記号）：デリミタです。
- \（バックスラッシュ）：デリミタ（エスケープ文字）です。

マスクでこれ以外の文字を使用した場合、マスクはマスクとして認識されず、文字は通常のテキストとして扱われます。

（**Cisco Prime Collaboration リリース 11.2 以降の場合**）次のことができます。

- キーワード サポート属性の電話番号に対するトランスフォーメーション マスキングを実行する。
- それぞれのキーワード値の先頭のシーケンスと末尾のシーケンスを含む属性値を持つサービスをプロビジョニングする。

（注） キーワードサポート属性は、追加キーワードを受け入れ、指定したキーワードから文字の末尾のシーケンスを取り込み、属性の値として設定します。文字の末尾のシーケンスを取得するために、先頭の文字数はゼロに指定されます。

- キーワード サポート属性の横にある情報アイコンにカーソルを置くと、ヘルプ テキストが表示されます。ヘルプテキストは属性値で指定できる有効なトランスフォーメーション テンプレートのサンプルを示します。キーワードサポート属性フィールドにカーソルを合わせると、ユーザ入力パターンが表示され、キーワードサポート属性フィールドからカーソルを移動すると、実際の値が表示されます。

テンプレートの設定時には、次のことに注意してください。

- トランスフォーメーション マスクに W と X が両方含まれている場合は、有効なマスクとして認識されず、通常のテキストとして扱われます。ただし、テンプレートに複数のマスクが含まれる場合は、同じテンプレート内の別のマスクで W と X を使用することができます。
- エスケープ文字（\）のプレフィックスを含まないデリミタ文字は、トランスフォーメーションマスクの一部の有効なデリミタとして認識されない場合、通常の文字として扱われます。エスケープ文字は、通常のコンテキストとトランスフォーメーションマスクを区切る必要がある位置でだけ使用できます。
- テンプレートの最大文字数は 60 文字です。

表にトランスフォーメーションテンプレートのサンプルを示します。このサンプルで使用する電話番号は 1234567891 です。

表 *6:* トランスフォーメーション テンプレートのサンプル

テンプレート	結果
%XXX%	891
%WWW%	123
%XXX.....%	123
%XXXX%	7891
%.....WWWW%	7891
%...WWW%	456
%XXX….%	456
%9XXX0000%	94560000
%..9WWW0000%	94560000
%55585XX000%	5558567000
%55585WW000%	5558567000
%WWXX%	%WWXX%
(%WWW%) %...WWW%-%XXXX%	(123) 456-7891

テンプレート	結果
John Smith x%XXXXX%	John Smith x67891
%John Smith\%x%XXXXX%	%John Smith%x67891
%WWW% Engineering	123 Engineering
（**Cisco Prime Collaboration** リリース **11.2** 以降の場合） ${FIRSTNAME}(3)(3) 例：John Smith ${FIRSTNAME}(0)(3) 例：John Smith ${EXTENSION}(3)_%XXX%	（**Cisco Prime Collaboration** リリース **11.2** 以降の場合） FIRAME 例：Johith FIRAME 例：ith 123_891